



NO.1353

2月13日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四八
F 四三二一四四七



文教民生委員会 所管事務調査

ごみ処理の現状について

2月3日、文教民生委員会はごみ処分場の現状について所管事務調査を行いました。

網走市は昨年、ごみ処分場の埋立地が今のままなら、あと、4・5年、生ごみの堆肥化をさらにすすめることと6・7年となると説明し、市民に分別の協力を求めています。(左イメージ図)

埋立ごみ 計画の1.8倍

問題点としては、①生ごみの堆肥化が機械故障で進まない。(現在稼働中) ②埋め立てごみの約1/3が生ごみや資源物が混入、③紙おむつの処理、④り災ごみの

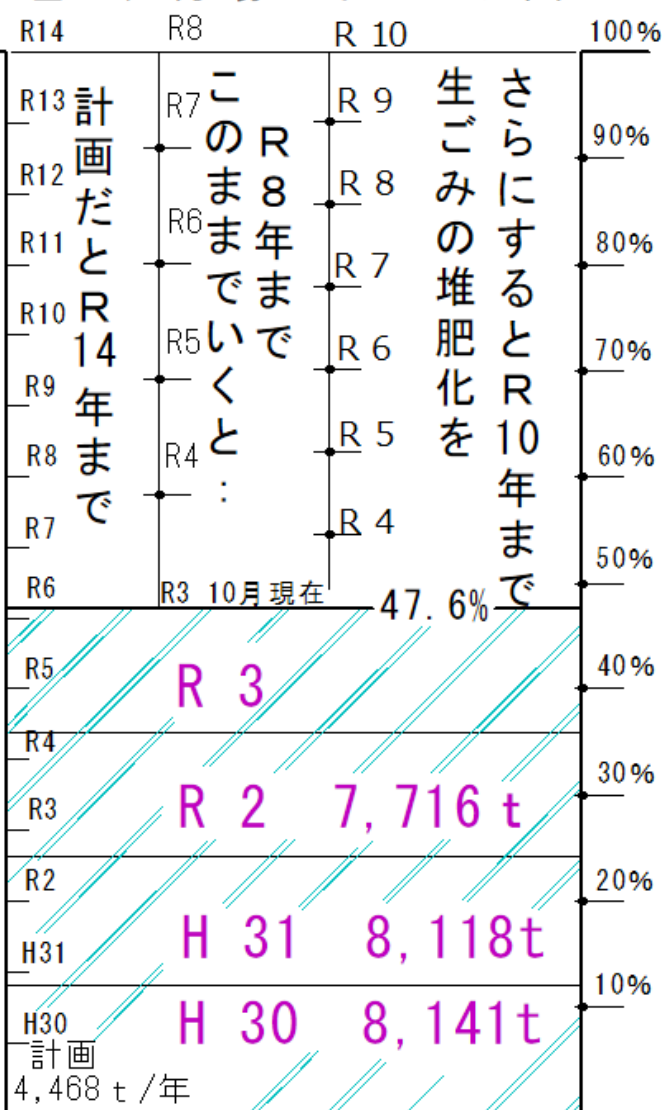
受け入れがあり、市は分別の啓発と中間処理をする必要があるとしています。

市は令和4年度に2期目の埋立地の計画を行い、最終処分場を整備する予定としています。

当初計画に沿う手だてを

日本共産党の松浦議員は、廃棄物処理の計画では生ごみや資源物は埋める計画はなかったとして、処分場に人員を配置し、埋め立てごみの分別を検討すべきではないかと話しています。さらなる、検証と延命化の議論が必要です。

埋立処分場のイメージ図



松浦奮戦メモ



日本共産党は、昨年9月に「気候危機を打開する2030戦略」を発表しました。衆議院選挙で日本共産党の候補者は、演説の中で、その政策やジェンダー平等について訴えましたが、他の政党・候補者はほとんど取上げていませんでした。しかし、世界の若者や日本の若者は、この問題では大変関心が高い課題であることが、先日のテレビで報道されていました。

私も改めて「気候危機を打開する2030戦略」のパンフレットを読みました。①気候危機と呼ぶべき非常事態：CO2削減への思い切った緊急行動②「口先だけ」の自公政権：4つの問題点③日本共産党の提案：省エネと再エネで30年度までに50〜60%削減④脱炭素、省エネ・再エネをすすめる社会システムの大改革⑤脱炭素と貧困・格差是正を二本柱にした経済・社会改革で持続可能な成長をとらう内容で書かれています。分かりやすく書かれていて、議会活動に活かしたいと思います。

村おぼろげ



日曜日の朝、図書館に本を借りに行くとき、前庭に子ども達と家族の姿

が。ドラえもん、となりのトトロなどの雪像を作っていました。

今年には除雪が大変で、高齢者の町内会除雪サービスを利用しやすいようにしてほしいとか、生活道路の排雪はいつ入るのか教えてほしいの声が出されています。市の除雪体制に間口除雪を検討するよう求めています。管内では紋別市や美幌町でグレーダーとタイヤショベルの2台で間口除雪しています。

排雪が遅いのも、間口除雪ができないのも問題は人材不足だと言います。そうであるなら、中小業者が新規採用できるような市が助成するなどして、人材を育成し、持続可能な除雪体制をつくるべきです。

流水

1月「赤旗」日曜版合併号に、薬食同源という記事が掲載されていたのですが「1月に入り3週

ぐらい雪が深々と降り、鈍よりした空模様」「なんだか朝から元気が出ない、朝の目覚めも遅くなっている。太陽が恋しい感じ」で最近、太陽の光で目覚めていない。▼合併号の薬食同源を再度読み返す。夜が明けるのも早くなってきたいるが、布団から中々出られません。太陽ってやはりありがたいものだどつくづく感じる。冬場は、身体が温まる食材「五味」酸・苦・甘・辛・鹹のもの鍋物を食べると同時に、太陽の光を浴びることが大事と書いてありました。▼私は、「冬になると冬眠している爬虫類なんです」と、針治療を受けながら話してました。みなさんも感じたことがあるでしょう。今感じている方もいるでしょう。その中で、冬のおすすめめの過ごし方で、生き物にとって冬は冬眠する季節。動けなくなるのは自然なこと。「早く寝て遅く起きること」で「冬場を乗り切る。▼2月となれば春めく季節なのですが、北海道は春まだ遠いです。太陽の「陽」の気を「背中に受けて日光浴し、心と身体の温まる食べ物を食べ、明るく楽しく過ごせれば心も体もポカポカといきたい」が、コロナ・燃料の高騰・物価高騰と生活の不安の種ばかり!

すみっこ

